



ズーム×クスコ 2大メーカー コラボ車高調!!



スプリングは目にも鮮やかなレッドでカラーリングされている。フェンダーの隙間から覗いたときのアピール度は満点だ。



調整ダイヤルにはローレット加工済みなので、工具なしで調整可能。思い立った時、すぐに調整できるのが嬉しい。



ショックに切っただけあるネジ山は台形となっており、洗浄時にダストが残った場合でもネジ山を傷めにくい。



スプリングシートには高分子ポリマー製スラストシートを挟み込んであり、緩み防止や静音性向上に役立つ。



ミニバン用には純正形状ゴム製アッパーマウントを標準装備としたことで、静音性を一層高めてくれる。

ズームは、多彩な車種ラインアップや業界初のダウン量保証を付けるなどドレアップオーナーから人気を集めるダウンサスブランド。そんなズームが今回、老舗チューニングブランド・キヤロッセとコラボした車高調をリリース。ズームのスプリングにクスコのショックという、まさに鬼に金棒的な組み合わせだ。

基本コンセプトは乗り心地重視で、車高の変化でストローク量が変わらないフルタップ式を採用。また減衰力調整部には圧力適正化バルブを装備し、低速時でもしっかりと減衰力を発生させることで、発進直後

- SPECIFICATIONS**
- 減衰力調整／40段階
 - 対応車種／ミニバン&ワゴン多数
 - 価格／15万円～



ズーム／AJ-II
ZOOM AJ-II

問:ズーム ☎0942-36-8018 <http://www.zoom-bane.jp>



や停止寸前の低速域でも乗り心地と操縦安定性を確保している。ピストンロッドは径を強度のある22φとし、低フリクションドライブアリングを採用。車重の重い大型ミニバンでもピストンロッドの摩擦が少ない快適な乗り味としている。

今回紹介しているAJ-IIのほかに、廉価モデルのAJ-I(11万円)も同時にラインアップ。調整方式はネジ式、フロントの減衰力固定とあらかじめ最適なセッティングにプリセットされており、あとは車高を決めるだけという初心者におすすめのモデルとなっている。

バネの硬さを決めてから減衰力を調整する

今回は、「ZOOM A J II」をプリウスに実際にセッティングするところから谷口さんが参加、車高調のオイシイ乗り味の見つけ方について、まずはトーク、トーク、トーク!!

「個人的な好みとして硬いアシは好みじゃない。柔らかめで運動性能が高いのが好きだね。具体的にはガス圧も落してバネも柔らかめ。スポーツモデルであつてもね」。

それを作るには、バネとダンパーとのマッチングが肝心。バネが硬くて減衰力が柔らかくても乗り心地が悪くなるし、その逆も同じだ。ただし車高を下げて運動性能を求めるなら、それなりにバネが硬くて踏ん張るアシに仕上げる必要がある。

「どれだけ運動性能を求めるか? 乗り心地はどこまで重視するかでバネの硬さを決めて、それに見合った減衰力にするのがベストだね」。

最後の5段分くらいは乗り心地が大きく変わる

「車高を下げる人が大半だろうけど、柔らかめのアシで車高を極端に下げていくと、必ずといっていいほどパンブタッチしたり、アームロックして乗り心地が急激に悪化する。そこに注意しながら、乗り心地と運動性能のバランスを取るのが重要かな」。

スーパーGTや86ワンメイクレースで活躍する谷口信輝選手。「どれだけ運動性能を求めるか? どれだけ乗り心地を重視するかによってバネレートを決め、それに見合った減衰力セッティングするのがベスト」と語る。

今どきの乗り心地重視の車高調なら推奨車高は9cm以上確保されているだろうから、その車高で調整していけば問題はなさそうだ。

「基本的に乗り心地をよくしたかったら減衰ダイヤルを緩める方向しかない。特にリアは緩めると乗り心地がよくなることが多いよね。ただし感じ方のレベルは人それぞれだから、1クリックを鋭く感じ取る人もいれば、大きく変えないと分からない人もいる。だから、減衰力をどれだけ変更すればいいかは一概にはいえないね」。

自分好みの乗り心地にアレンジしたいなら、とにかく触って感じてみるのが一番ということだろう。

「特に車内から減衰力変更できる車高調はそついった意



DRIVER
谷口信輝さん

次頁でインプレッション!!



アルファードや86、S15シルビアなどに加え、50系プリウスも所有。当然、そちらもローダウン&インチアップ済みだ。今回はユーザー目線でインプレッションしてくれた。ちなみに写真は本誌のテスト車両。



前後
推奨車高
(前後30mmダウン)
に設定

ローダウン時の乗り心地を重視したズームのAJ-II車高調を、50プリウスに装着。車高はメーカー推奨値(参考値)であるフロント、リアともに30mmダウンに設定した。減衰力は40段階調整式となるが、まずはちょうど真ん中の20段目にセッティングしてインプレッションを実施。ちなみに、試しに減衰力を一番硬くしての試乗も行ったが、街乗りではダンパーの沈みはじめてから減衰力が硬く、細かい振動が収まらないといった印象。ただし、ワインディングなどに持ち込めば違ったフィーリングになるはずだ。シチュエーションに応じて自在にセッティングを変えられる僕の深さもうれしい!

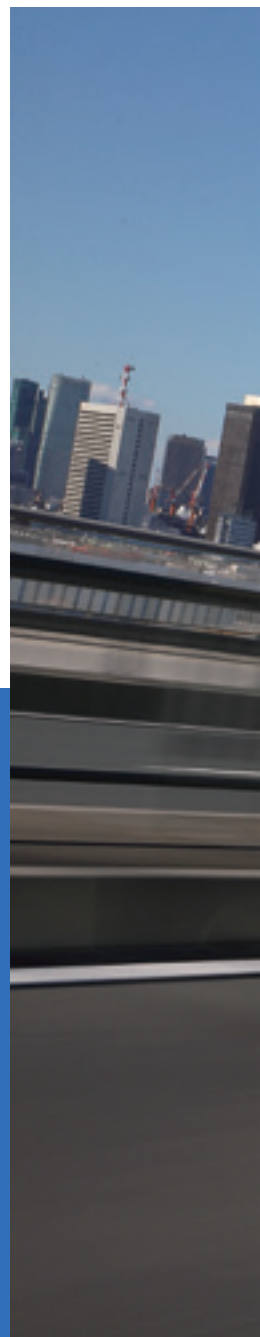


自分好みのスタイルや走りのできる車高調。しかし使いこなさなければ宝の持ち腐れ。そこで今回はセッティング能力に定評があるレーサー谷口信輝さんに「オイシイ乗り味の見つけ方」を伝授してもらうことに。果たして足まわりを知り尽くしたプロは、どんなアプローチでイジっていくのか?

谷口信輝が教える オイシイ乗り味の見つけ方

乗り心地重視のズーム×キャロッセのコラボ車高調で試す!

味で有効だと思っよ。
ただし、今どきの車高調は
段数が非常に多いけれど「締
めるも緩めるも最後の5段
分くらいは大きく乗り心地
が変わる」そう。あまり使
えないと思ったほうがいいの
かもしれない。



装着車高調はコレ!

ZOOM AJ-II

問:ズーム ☎0942-36-8018 <http://www.zoom-bane.jp>

マイルドな特性となる複筒式ダンパーを採用した全長調整式モデル。スプリングは独自の鋼材や線形、巻き数とし、乗り心地を確保したのも特徴だ。50プリウス用のバネレートはF・5kg/mm、R・4.5kg/mm。



- 価格:15万円～
- 対応車種:20/30アルファード&ヴェルファイア、80ノア&ヴォクシー&エスクァイア、E51/E52エルグラン、C25/C26セレナ、RB3/RC1オデッセイ、MH34SワゴンR&ステイグレー、LA600Sタント&カスタム、JF1 N-BOX&カスタム ほか多数



減衰力が装着したまま調整できない!?
50プリウスなどの
新型車にオススメ!

ノーマル車体の構造上、車高調を装着した状態では減衰力ダイヤルの変更が気軽にできない車種も増えてきた新型車。50プリウスもそのひとつだが(実際、フロントはダイヤル調整のために鉄板に穴を開けた)、AJ-II車高調では車内から減衰力調整がスイッチ操作で行なえるクスコe-Con2に対応しているのが安心。色々と乗り心地を変えたいユーザーなら付けておいて損はない装備だ。購入時は検討したい。

CUSCO e-Con2

問:キャロッセ ☎027-352-3578
<http://www.cusco.co.jp>



●価格:4万7500円



ステッピングモーターにより減衰力を遠隔操作できるe-Con2。大型の液晶画面は7色から自分好みのカラーを選択可能。乗車人数や好みの乗り味など、減衰力設定を4パターンまで記憶できる。オプションのGセンサーを装着すれば、リアルタイムで前後左右のGや最大Gを確認することも可能となる。



●装着サイズ:18×7.5+48 ●装着カラー:BMC ポリッシュ ●タイヤ:ヨコハマ・アドバンスポーツV105 (215/40-18)

ストリート向け車高調だから

真ん中20段で快適性確保

今回はズームとクスコがコラボレートして開発したストリート向け車高調『A-J II』を50プリウスに装着。メーカー推奨の車高(前後30mmダウン)にセッティングして、その乗り心地や走りをチェックした。

「インチアップしたうえに車高が下がっているの、ノーマルより断然にカッコいいね。オレの好みに、はもうちょい攻めたいけど、街乗りでの使い勝手や車検を考えると、誰もが安心して乗れる仕様だと思っよ」と谷口さん。

ただし気になるのは、純正の15インチから18インチにインチア

ップしたことによる影響。タイヤの扁平が薄くなることでクッション性は確保しにくくなる。つまり、乗り心地という面では厳しい条件になるのは否めない。

「ズームのA-J IIは乗り心地を重視したストリート車高調というだけに、バネレートも減衰力もノーマルより少しだけ高めているという印象。さすがにノーマルにはかなわないけど、十分な快適性が確保されているよね。ダンパーが路面のうねりや凹凸を吸収してくれているから、車体が細かく揺れることもない。ただし段差など

に乗り上げて大きな入力が入ったときに、減衰力がグッと効いてしまっ傾向はあるかな」

そこで、真ん中の20段に設定していた減衰力ダイヤルを、前後ともに5段分弱めてみると、そうした突き上げ感も収まり、より快適な走りに生まれ変わった。

このように、それぞれの好みに応じて、乗り味を調整できるのもこのモデルの強み。40段という豊富な減衰力調整幅を持つズームの車高調なら、きつと自分にとって、オイシイ乗り味を見つけ出すことができるはずだ。



「自分好みにドレスアップすれば、クルマを愛車にできる!」と谷口さん。そのためのインチアップは必須とか。

装着ホイールはコレ! **Lehrmeister VIVANT**
問:レアマイスター ☎022-348-3319 <http://www.lehrmeister.jp>

彫刻のようなデザインの
2×5スポークモデル



リムエンドまで伸びたツインスポークは、芸術的ともいえる凝ったデザイン。コンパクトにまとめあげたホイールセンターも彫りが深い造形とすることで、ラグジュアリー感を強調している。豊富なカラーバリエーションも魅力だ。

●サイズ:15×4.5～22×8.5 ●価格:3万円～7万7000円
●カラー:ガンメタマットポリッシュ、ブラッククリア、ブロンズグリア、BMCポリッシュ